

戴炎輝博士略年譜・著作目録（九訂稿）

（令和 7（2025）年 4 月 24 日（木）現在）

〔目 次〕

（作成経緯）	2
【参考 HP】	3
【関係 HP】	6
九訂稿はしがき	7
八訂稿はしがき	7
七訂稿はしがき	7
六訂稿はしがき	8
五訂稿はしがき	8
四訂稿はしがき	9
三訂稿はしがき（省略）	10
二訂稿はしがき（省略）	10
改訂稿はしがき	10
初稿はしがき	10
（附載）戴炎輝博士著作目録（初稿）はじめに（初稿掲載「目録」の序）	11
（原始稿）『戴炎輝博士について（第一輯及第二輯）』はじめに	12
（附載）『戴炎輝博士について（第二輯）』所載「戴炎輝博士著作目録稿（第二稿）」 はじめに	13
（参考）『戴炎輝博士について（第一輯）』（平成 9 年 1 月 15 日作成、同 3 月 20 日 改訂）	13
『戴炎輝博士について（第二輯）』（平成 9 年 3 月 20 日作成）	14
〔凡 例〕	15
1 略年譜	17
2 著作目録	18
（1）著書	18
（2）整理・編纂	20
（3）論説その他（著書等を含む。）	22
（4）戴炎輝博士記念著作	30
（5）戴炎輝博士関連著作	31
（参考 1）「民俗台湾」の復刊状況	32
（参考 2）「『台法月報』総目録」の刊行	33
（参考 3）淡新檔案関係邦人資料	33
3 その他	
（1）戴炎輝博士故居関係資料	34

(作成経緯)

- ・平成 9 (1997) 年 3 月 25 日 原始稿 (『戴炎輝博士について (第一輯及第二輯)』) 作成
- ・平成 10 (1998) 年 2 月 1 日 初稿作成
- ・平成 11 (1999) 年 12 月 1 日 改訂稿作成
- ・平成 15 (2003) 年 9 月 1 日 二訂稿作成
- HP 初載: ・平成 16 (2004) 年 10 月 14 日 二訂稿アップ (テキスト版)
(爾後、三訂稿 (平成 18 年 1 月 1 日作成)、四訂稿 (平成 19 年 1 月 1 日作成) とは別途に、HP 上では同稿での補訂を繰り返す。)
- ・平成 29 (2017) 年 11 月 19 日 (日) 五訂稿作成 (PDF 版に変更)
- ・令和 3 (2021) 年 11 月 13 日 (土) 六訂稿作成 (レイアウト全面変更)
- ・令和 4 (2022) 年 4 月 1 日 (金) 七訂稿作成 (一部補正の上、『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録【参考篇】【附篇】一ローマ法・法制史学者著作目録選 (第 15 輯) 一』 (令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊) に収録。)
- ・令和 4 (2022) 年 7 月 8 日 (金) 八訂稿作成 (一部補正)
- ・令和 7 (2025) 年 4 月 24 日 (木) 九訂稿作成 (電子版であることに鑑み黒赤二色使用開始の上一部補正)

【参考 HP】(令和 3 (2021) 年 11 月 15 日全面差替、同年 12 月 30 日、同 4 年 7 月 8 日、同 7 年 4 月 24 日各一部修正)

* 法制史学会 HP (平成 14 (2002) 年 10 月 5 日公開、平成 24 (2012) 年 4 月 1 日移転)

〈<http://www.soc.nii.ac.jp/jalha/toppage.htm>〉 ⇒

(新) 〈<https://www.jalha.org/>〉

・ 〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%B1%B1%E5%AE%89%E6%95%8F>〉

* 全体 HP

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/>〉

・ 「日本のローマ法」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Romanist2003.htm>〉

・ 「法制史学者著作目録選 (WEB 版)」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・ 本 HP 別稿: 宮崎道三郎博士略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miyazaki001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 池辺義象氏著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ikebe001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 中田薫博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakata001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 内藤吉之助教授略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/naito001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 金田平一郎博士略年譜・著作目録

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kaneda001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 小早川欣吾先生略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 「小早川欣吾先生記念メダルによせて

—小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」とともに—

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他」

〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf〉

・ 本 HP 別稿: 牧英正博士著作目録等抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/maki001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 小林宏先生著作目録等抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayashi001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 千賀鶴太郎博士著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/senga001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 戸水寛人博士著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tomizu001.pdf>〉

- ・本HP別稿：春木一郎博士略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki001.pdf)
- ・本HP別稿：原田慶吉教授略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm)
- ・本HP別稿：船田享二博士略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/funada2003b.htm〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/funada2003b.htm)
- ・本HP本稿：田中周友博士略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm)
- ・本HP別稿：栗生武夫先生略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf)
- ・本 HP 別稿：「栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf)
- ・本 HP 別稿：「『栗生武夫先生随筆拾遺』作成の思い出
 —『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf)
- ・本HP別稿：「PDF版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf)
- ・本HP別稿：西本頼博士著作目録等抄
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimoto001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimoto001.pdf)
- ・本HP別稿：久保正幡博士著作目録等抄
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf)
- ・本HP別稿：井上周三教授関係資料抄
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/inoue001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/inoue001.pdf)
- ・本HP別稿：上山安敏先生著作目録等抄
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ueyama001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ueyama001.pdf)
- ・本HP本別稿：筧克彦博士略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf)
- ・本HP別稿：近藤英吉博士略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kondo001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kondo001.pdf)
- ・本HP別稿：増田福太郎博士関係資料一斑
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/masuda001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/masuda001.pdf)
- ・本HP別稿：山崎丹照先生著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yamazaki001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yamazaki001.pdf)
- ・本HP本稿：戴炎輝博士略年譜・著作目録
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf)

＊和田徹氏HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（⇒令和5（2023）年12月31日閉館）

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉

・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm>〉

・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm>〉

・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/kuryu.htm>〉

・いろいろ電子文庫

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/iroiro.htm>〉

・PD 図書室（「梅雨空文庫」のデータを整理してまとめたもの）

〈<http://books.salterrae.net/about/tuyuzora.html>〉

（註）早くには「船田享二電子文庫」の平成22（2010）年開設予告もなされていた（平成14（2002）年12月14日初出か?）が、その後平成18（2006）年6月3日に「2006/06/03 船田享二電子文庫計画中止」の表示が出た。

.....

＊先に閉館した上記和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」は、令和 6（2024）6 月 5 日（水、公開公表日）に「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」として再開された。

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/>〉（令和 7（2025）年 4 月 24 日追加）

・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/haruki.htm>〉

・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/harada.htm>〉

・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/kuryu.htm>〉

・いろいろ電子文庫

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/iroiro.htm>〉

・梅雨空文庫

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/tuyuzora.htm>〉

＊「西村稔先生（1947～2019）年譜・著作目録（阪本尚文編）（初版）（2020（令和2）年4月現在）」⇒爾後逐次改訂中⇒（最新版：令和5（2023）年11月現在第8稿掲載）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimura001.pdf>〉

（註）本著作目録は、阪本尚文編『Aún aprendo それでもまだ学ぶぞ——西村稔先生追悼集』（私家版、2020（令和2）年2月28日刊（福島大学学術機関情報リポジトリ所収〈h

<http://hdl.handle.net/10270/5154>》) に収録した「西村稔先生年譜・著作目録」に逐次修正を加えつつあるものである。

【関係 HP】(令和 4 年 7 月 8 日一部修正)

- ・法制史学会: [〈https://www.jalha.org/〉](https://www.jalha.org/)
- ・国立国会図書館: [〈https://www.ndl.go.jp/〉](https://www.ndl.go.jp/)
- ・国立国会図書館デジタルコレクション [〈https://dl.ndl.go.jp/〉](https://dl.ndl.go.jp/)
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス (個人送信) (令和 4 (2022) 年 5 月 19 日開始)
[〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉](https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html)
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー (令和 4 (2022) 年 4 月 1 日追加)
[〈https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/〉](https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/)
- ・CiNii: [〈https://ci.nii.ac.jp/〉](https://ci.nii.ac.jp/) ⇒ [〈https://cir.nii.ac.jp/〉](https://cir.nii.ac.jp/) (【[2022] 4/18 更新】CiNii Articles の CiNii Research への統合について)、[〈https://ci.nii.ac.jp/books/〉](https://ci.nii.ac.jp/books/)

九訂稿はしがき

「戴炎輝博士略年譜・著作目録」については、先年八訂稿を作成したが、その後一、二気づいたところを補正し、九訂稿とする。今次補正に当たっては、梁添盛博士の御高配に与った。厚く御礼申し上げます。なお、本九訂稿から本稿が電子版であることに鑑み黒赤二色使用とすることとした。

令和 7（2025）年 4 月 24 日

編 者 謹 誌

八訂稿はしがき

「戴炎輝博士略年譜・著作目録」については、今春七訂稿を作成したが、その後一、二気づいたところを補正し、八訂稿とする。更なる御示教をお願い申し上げるものである。

令和 4（2022）年 7 月 8 日

編 者 謹 誌

七訂稿はしがき

「戴炎輝博士略年譜・著作目録」については、昨秋六訂稿を作成したが、その後一、二気づいたところを補正し、七訂稿とする。更なる御示教をお願い申し上げるものである。

令和 4（2022）年 4 月 1 日

編 者 謹 誌

（『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録
【参考篇】【附篇】一ローマ法・法制史学者著作目録選（第 15 輯）一』（令和 4（2022）
年 4 月 1 日刊）に収録。）

六訂稿はしがき

「戴炎輝博士略年譜・著作目録」は、先年五訂稿を作成したままで現在に至ったが、今般、他の諸稿と同じく、レイアウトを全面変更することとし、かつ、それに併せて一、二補正した。六訂稿とするものである。

本稿作成に当たり大変な御高配に与った上山安敏先生には、去る 10 月 28 日忽焉として逝かれた。96 歳。謹んで御冥福をお祈りいたします。

令和 3 (2021) 年 11 月 13 日

編 者 謹 誌

五訂稿はしがき

「法制史学者著作目録選 (WEB 版)」掲載のテキスト版「戴炎輝博士 (1908～1992) 著作目録 (2 訂稿)」〈http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui.htm〉は、「著作目録 (二訂稿) (平成 15 年 9 月 1 日現在)」を基にして、補訂しつつあった (補訂履歴: 平成 18 年 3 月 31 日、平成 19 年 8 月 9 日、同 8 月 19 日、平成 20 年 1 月 16 日、平成 21 年 5 月 5 日、平成 22 年 11 月 4 日) が、ここ七年は何もせず、最終的には「(最新補訂: 平成 22 (2010) 年 11 月 4 日)」現在で今に至った。寔に慚愧に堪えない次第である。

尤も、この間、本 HP とは別に三訂稿 (平成 18 年 1 月 1 日作成)、四訂稿 (平成 19 年 1 月 1 日作成) を作成したが、いろいろ事情あって本 HP には反映させることができなかった。加えて、その後事情により検討関心を明治警察史に移したこともあって、「戴炎輝博士著作目録」については、以後十年程「ほとんど何もしなかった、否できなかった」というしかない。

しかるに、今般、諸般の事情により、「法制史学者著作目録選 (WEB 版)」掲載のもののうちテキスト版でアップしたままになっているものを、他との整合性をとるためすべて PDF 版と差し替えることにしたことから、戴炎輝博士分についても、新たに上記四訂稿を基にして五訂稿を作成し、PDF 版で掲載することとした。

すなわち、本五訂稿は、平成 19 (2007) 年 1 月 1 日作成の四訂稿以降に僅かに気がついたものを中心に多少の改訂を加えたものである。追加分については追加年月日を記載し、四訂稿以降のものであることを明示した。

「戴炎輝博士著作目録」は、もともとは日本統治下台湾史検討の観点から作成し始めたものであって、戦後のことについては、何もしていないことをお断りしておく。加えて、前回改訂後早くも十年余の歳月を閲し、本来ならば更に精査すべきであったが、今回は急に思い立って差し替えたため、新たなことを盛り込めなかったことを甚だ遺憾に思う。出来るだけ早く六訂稿作成に向けて努力したいと考えているので、御示教いただければ幸い

である。

各版の改訂の際に大変お世話になった中央警察大学教授梁添盛博士には、本年 8 月 1 日同大学警政管理学院院長の要職に就任された。遥に祝意を表したい。

抑々本稿作成の発端は、四十数年前の昭和 47（1972）年春思いがけず訪台の機会を得たことに拠る。当時御高配を賜った関係諸氏の多くは既に鬼籍に入られた。改めて各氏の当時の御厚情に深甚の謝意を表するものである。

平成 29（2017）年 11 月 19 日

いろいろありし今日この頃

編 者 謹 誌

四訂稿はしがき

先の「戴炎輝博士略年譜・著作目録（三訂稿）」は、様々な事情から、例外的に、『鷺巣敦哉とその時代（続々輯）〔特別収録 1〕：『鷺巣敦哉著作集』補遺続集（第二輯）、〔特別収録 2〕：戴炎輝博士略年譜・著作目録（三訂稿）—日本統治下台湾警察史雑纂第六輯一』（平成 18（2006）年 1 月 1 日刊）に掲載せざるを得なかったが、今般、漸く三訂稿を更に補正して、四訂稿を作成した。

今次改訂に当たりては、全般にわたって、台湾の中央警察大学行政警察系教授梁添盛博士より、寔に御懇篤な御示教を賜った。特に最近のものについては、わざわざ註を作成していただき、原文のまま載せることをお許しいただいた。ここに誌して、博士に対し遥かに深厚の謝意を表する次第である。

平成 19（2007）年 1 月 1 日

武州荏田にて

編 者 謹 誌

（平成 19（2007）年 1 月 1 日刊）

（原載：『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録（二訂版）—内藤吉之助教授・金田平一郎博士著作目録（初稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第 8 輯）—』（平成 19 年 1 月 1 日刊）所収（栗生先生分は六訂稿、小早川先生分は七訂稿、戴博士分は四訂稿、小林先生分は二訂稿、山崎先生分は改訂稿。新たに内藤吉之助教授（初稿）、金田平一郎博士（初稿）分を収録。第 7 輯の正誤表あり。CD 版あり。））

三訂稿はしがき（省略）

平成 18（2006）年 1 月 1 日

（原載：『鷺巣敦哉とその時代（続々輯）〔特別収録 1〕：『鷺巣敦哉著作集』補遺続集（第二輯）、〔特別収録 2〕：戴炎輝博士略年譜・著作目録（三訂稿）—日本統治下台湾警察史雑纂第六輯—』（平成 18（2006）年 1 月 1 日刊）所収）

二訂稿はしがき（省略）

平成 15（2003）年 9 月 1 日

（原載：『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士略年譜・著作目録（新版）〔附〕『小早川欣吾先生東洋法制史論集』（平成 8 年 6 月 25 日刊）補遺（第 1 輯）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第一輯）—』（平成 15 年 9 月 1 日刊）所収（栗生先生分は五訂稿、小早川先生分は六訂稿、戴博士分は二訂稿））

改訂稿はしがき（省略）

平成 11 年 12 月 1 日

（原載：『戴炎輝博士略年譜・著作目録（改訂稿）』（平成 11（1999）年 12 月 1 日刊））

初稿はしがき

戴炎輝博士の著作目録については、先に拙編『戴炎輝博士について（第 1 輯及第 2 輯）』（平成 9 年 3 月 25 日刊、以下「前書」という。）中で一部まとめたが、諸般の事情により、甚だ不十分なものであった。このため、早く改訂したいと思っていたが、別の二、三

の作業に追われ、今日まで遅延していた。

しかるに、昨秋、岐阜教育大学（註：現岐阜聖徳学園大学）中島利郎先生の御厚意で、貴重な資料（註：下記（附載）参照。）を入手できたので、この機会に、現在手がけている一連のローマ法、法制史関係諸先生著作目録（本書（初稿）67頁以下参照）の構成に倣って、改めて上記拙編を編集し直すこととした（註：従前のものは「目録稿」と題していたが、ここで初めて「目録」としたため、「目録」では初稿となる。）。ただ、本書は、私の目下の関心である日本統治下台湾史の観点よりまとめたものにすぎず、この意味で、極めて一面的なものであることをお断りしておきたい。加えて、現在台湾に行く術がないため、なお隔靴搔痒の感があるが、大方の御教示を得て、更に補正に努めたいと考えている。

本書作成に当たりては、忝なくも、前書に引き続き、久保正幡先生、小林宏先生より、暖かい御激励を頂戴した。ここに、謹んで深甚の謝意を表する次第である。

平成 10（1998）年 2 月 1 日

於安東仮寓

編 者 謹 誌

（平成 10（1998）年 2 月 1 日刊）

（附載）戴炎輝博士著作目録（初稿）はじめに（『初稿』掲載「目録」の序）

戴炎輝博士（1909～1992）の著作目録については、先に、拙編『戴炎輝博士について（第1輯及第2輯）』（平成9年3月27日刊）中において、極めて不十分ではあるが、「戴炎輝博士著作目録稿（第二稿）」として、取りあえずまとめたところである（註：下記に「同目録稿（第二稿）はじめに」を再掲した。）。

しかるに、先頃、岐阜教育大学（現岐阜聖徳学園大学）中島利郎先生より、陳艷紅女史の台湾・東呉大学日本語文学系博士論文「領台時代の台湾文化と日本—（民俗台湾）を中心に—」中の「戴炎輝著作目録」のコピーの恵投に与り、大変驚いた（註）。

陳女史の上記博士論文の全体を拝見していないので、現時点では何ともいえないが、戴いた「戴炎輝著作目録」コピーの前頁に金関丈夫博士の著作目録の一部が掲載されていることから、陳女史は、おそらくや、『民俗台湾』の主要同人の方々の著作目録をほとんど作成されているのではないかと推測される。たまたま同じ時期に、私も、『民俗台湾』を読んで、戴炎輝博士の著作目録を作成し始めたのであるが、周知のように、台湾で日本統治下の台湾史研究が極めて活発化しつつある現在、今後更にこの方面の研究が進捗することが期待される。

陳女史の「戴炎輝著作目録」（以下「目録A」という。）を見ると、戦前期のものの日文表題に不正確なところがあることと、1965（民国54）年以降のものが殆どないことに留意を要するが、先にまとめたもの（「戴炎輝博士著作目録稿（第二稿）」、以下「目録B」という。）以外のものが見受けられ、極めて貴重と思われたので、この機会に、目録

A 及び目録 B をまとめて一本化し、上記著作目録の第三稿（以下「目録 C」という。）を作成することとした。ただし、表題としては、従前の例からすれば、本来「戴炎輝博士著作目録稿（第三稿）」とすべきところ、現在別に作成しつつある一連のローマ法、法制史関係諸先生著作目録との関係で、標記（註：「戴炎輝博士著作目録（初稿）」）のように改めた。御了承願いたい。また、諸般の事情により、殆ど原文を実見できず、孫引きの域を出ないとともに、台湾で用いられている繁体字を使用できなかったこととお断りしておく。今後は、本目録 C に更に大方の御示教を得て、より完全を期したいと思う。よろしく御指導賜れば幸いである。

ちなみに、中島先生は、魯迅研究や日本統治下の台湾文学研究で大きな業績を挙げておられるが、加えて、日本統治下台湾の諸雑誌目録の作成にも意を注がれ、既に『日抛時期台湾文学雑誌総目・人名索引』（台北・前衛出版社、1995 年刊）及び『台湾時報総目録』（緑蔭書房、平成 9 年刊）を上梓され、さらに、『台湾警察時報』、『台法月報』の総目録をも出されようとしている。また、日本統治時代の台湾語研究の第一人者といえる東方孝義氏の詳細な著作目録を作成され、近々同氏の旧著（『台湾習俗』（昭和 17 年刊））の復刻版をも刊行されようとしておられる。中島先生の御厚意に深謝の意を表するとともに、遥かに台湾の陳女史に敬意を表する次第である。

（於安東仮寓 平成 10 年 2 月 1 日稿）

（註）陳艷紅女史は、現在中央警察大学副教授（近く教授に御昇進予定との由）であるが、『民俗台湾』関係の著作をまとめられ、昨 2006 年 4 月に『『民俗台湾』と日本人』（致良出版社有限公司、2006 年 4 月初版一刷）として公刊されておられる。ただし、同書には戴炎輝博士著作目録関係の記述はない。

（参考）下記「戴炎輝博士メモ」をも掲載す。：① 戦前の時点における台湾法慣習研究の意味、② 最近の台湾史研究、③ 戴炎輝博士記念出版物、④ 『民俗台湾』と戴炎輝博士、⑤ 『台法月報』と戴炎輝博士、⑥ 戴炎輝博士小品集目録（1）、⑦ 姉齒松平判官のこと、⑧ 陳逸松氏のこと、⑨ 『民俗台湾』と楊雲萍教授

（原載：『戴炎輝博士略年譜・著作目録（初稿）』（平成 10（1998）年 2 月 1 日刊））

（原始稿）『戴炎輝博士について（第一輯及第二輯）』はじめに

今般戴炎輝博士の御著作目録を作成するに当たって、その参考としてメモしておいたものを、ここに集めてみた。もとより、いずれも未定稿の域を出ないが、なにがしかの御参考になれば幸いである。戴博士の御著作目録については、私の怠慢から、現時点では、中文ワープロを使用し得ないので、極めて不手際ではあるが、当面はこのままの形とせざるを得ないことを甚だ遺憾に思う。いずれ出来るだけ早く何らかの形で作成し直したいと考

えている。

先にまとめた第一輯（註：凡例 10 参照。）は、今第二輯（註：凡例 11 参照。）と併せるに当たり、少しく改訂を施すとともに、うち、第一輯（7）の目録本体（註：「戴炎輝博士著作目録稿（初稿）」）は、第二輯（13）（註：「戴炎輝博士著作目録稿（第二稿）」）を載せたことにより削除した。

本来ならば、全体にわたって再編集すべきではあるが、今はその余裕がない。よろしく御諒恕の程をお願いしたい。

今回、戴炎輝博士のことを調べるに当たっては、同博士と御面識、御交誼のあられた久保正幡先生、小林宏先生、岡野誠先生、島善高先生から貴重な御教示を得ることができた。ここに、謹んで厚く御礼を申し上げる次第である。

平成 9（1997）年 3 月 25 日

編 者 謹 誌

（附載）

『戴炎輝博士について（第二輯）』 「戴炎輝博士著作目録稿（第二稿）」はじめに

戴炎輝博士の著作目録については、従来、国立台湾大学法律学系編『戴炎輝先生七秩華誕祝賀論文集・固有法制与現代法学』（台北、成文出版社、1978 年 11 月刊）所掲の「戴炎輝先生著作目録」（以下「目録①」という。）があったが、1992 年 7 月 3 日の同博士御永逝後、『国立台湾大学法学論叢』第 21 卷第 2 期（1992 年 8 月刊）に「戴故教授炎輝先生著作目録」（以下「目録②」という。）が掲載された。

これが、現在では最も信頼すべきものと考えられるが、邦文発表論文の邦文名が中文訳されていたり、西暦と元号が合っていないなかったり、あるいはまた、明らかに遺漏と思われるものも二、三あることから、非礼を冒していることとは思うが、ここに上記目録②に手書きして修正した。本来ならば、全部打ち直すべきであろうが、今は余裕がない。したがって、これについては、今後の課題としたい。もとより本稿も、未だ全てを調査したわけではなく、極めて不十分なものであるが、何ほどかの御参考になれば幸いである。小品集については、ここでは割愛した。取りあえず第一輯「（5）戴炎輝博士小品集目録（1）」を参照されたいが、これについては、他日改めてまとめてみたいと考えている。

なお、本第二稿は、初稿（平成 9 年 1 月 15 日稿、第一輯「（7）戴炎輝博士著作目録稿（初稿）」）を改訂したものである。

（平成 9（1997）年 3 月 20 日刊）

（参考）

『戴炎輝博士について（第一輯）』（平成 9 年 1 月 15 日作成、同 3 月 20 日改訂）

（目次：戴炎輝博士メモ）：（1）『民俗台湾』と戴炎輝博士、（2）戴炎輝博士記念出版物、（3）戴炎輝博士について（1）、（2）（補正）、（4）戦前の時点における台湾法慣習研究の意味、（5）戴炎輝博士小品集目録（1）、（6）姉齒松平判官のこと（1）、（7）戴炎輝博士著作目録稿（初稿）

『戴炎輝博士について（第二輯）』（平成9年3月20日作成）

（目次：戴炎輝博士メモ）：（8）陳逸松氏について、（9）『民俗台湾』と楊雲萍教授、（10）姉齒松平判官のこと（2）、（11）最近の台湾史研究について、（12）『台法月報』と戴炎輝博士、（13）戴炎輝博士著作目録稿（第二稿）

（原載：『戴炎輝博士について（第一輯及第二輯）』（平成9（1997）年3月25日刊））

〔凡 例〕

1 戴炎輝博士（1909.11.28～1992.7.3）関係 HP 抄:

- ・「維基百科」（平成 19 年 11 月 25 日追加）

〈<http://zh.wikipedia.org/wiki/%E6%88%B4%E7%82%8E%E8%BC%9D>〉

- ・「台湾大百科全書」（平成 22 年 11 月 4 日追加）

〈<http://taiwanpedia.culture.tw/web/content?ID=5927&Keyword=%E6%88%B4%E7%82%8E%E8%BC%9D>〉 ⇒平成 29（2017）年 11 月 19 日現在では見られずか。

- ・「無為而治 戴炎輝孕育天才家族 2009/5/26」（平成 22 年 11 月 4 日追加）

〈<http://blog.udn.com/hausky/2984581>〉

・「記憶・台北 2008-05-07 国立台湾大学日式宿舍—戴炎輝寓所（台北市南昌路）」（平成 22 年 11 月 4 日追加）

〈<http://blog.xuite.net/liangcw/blog/17034439>〉

- ・「一門碩彦 戴教授電話！ 四人皆喊有」（平成 22 年 11 月 4 日追加）

〈<http://mypaper.pchome.com.tw/earthk2009/post/1312905107>〉 ⇒平成 29（2017）年 11 月 19 日現在では見られずか。

- ・「画像検索結果」（平成 25 年 2 月 6 日追加）

〈http://www.google.co.jp/search?q=%E6%88%B4%E7%82%8E%E8%BC%9D&hl=ja&tbid=u&rlz=1T4FTJA_jaJP388JP389&tbm=isch&source=univ&sa=X&ei=urYRUcnwHqXhmAWosYH4DQ&ved=0CEkQsAQ&biw=1280&bih=789〉

- ・「法制史学会」HP 〈<http://www.jalha.org/>〉

「全データ検索」参照。

2 ※＝著書（①～⑮）、整理・編纂（⑯～⑳）、・＝論説その他（1～80。書評は〈書評〉と誌した。）を示し、それぞれ仮の通し番号をつけた。それらに、日本国内で書評があるものは、【書評】として記載した。関連著作は【関連】で誌した。参考事項は（参考）で示した。

3 1934（昭和 9）年～1945（昭和 20）年執筆分は日文、1946（昭和 21）年以降は中文である。ただし、後者には一部日文のものがあるが、これについては（日文）を付した。

4 著書⑨『清代台湾之郷治』（台北、聯経出版事業公司、1979 年刊）所収論文には、※※印を附し、当該書中での編別、附録番号を誌するとともに、日文より中文訳されたものは（中文訳）又は〈中文訳〉とした。

5 著書⑬『伝統中華社会的民刑法制—戴炎輝教授論文集—』（台北、財団法人戴炎輝文教基金会、1998 年 11 月 28 日刊）所収論文には、※※※印を附し、当該書中での収録頁数を示した。

6 著者名が田井輝雄氏（1942（昭和 17）年～1945（昭和 20）年）のものは註記した。

7 二訂稿では、目録の縦書き転換の場合を考慮していたため、数字は漢数字を使ったが、三訂稿以降は、横書きとし、算用数字を使用した。

8 漢字については、繁体字ではなく、常用漢字を使用したことをお断りしておく。

9 各版の「はしがき」を冒頭に付載した。

10 『戴炎輝博士について（第一輯）』（平成9年1月15日作成、同3月20日改訂稿作成）の内容は、次のとおりである。なお、上記「改訂稿はしがき」の（参考）「戴炎輝博士メモ」参照。

（1）『民俗台湾』と戴炎輝博士、（2）戴炎輝博士記念出版物、（3）戴炎輝博士について（1）、（2）補正、（4）戦前の時点における台湾法慣習研究の意味、（5）戴炎輝博士小品集目録（1）、（6）姉齒松平判官のこと（1）、（7）戴炎輝博士著作目録稿（初稿）

11 『戴炎輝博士について（第二輯）』（平成9年3月20日作成）の内容は、次のとおりである。なお、上記「改訂稿はしがき」の（参考）「戴炎輝博士メモ」参照。

（8）陳逸松氏について、（9）『民俗台湾』と楊雲萍教授、（10）姉齒松平判官のこと（2）、（11）最近の台湾史研究について、（12）『台法月報』と戴炎輝博士、（13）戴炎輝博士著作目録稿（第二稿）

1 略年譜

1909（清宣統元、民前 3、明治 42）年 11 月 28 日 出生（台湾屏東籍）

（註：台湾の資料は、しばしば戴炎輝博士の御生年月日を宣統元年 11 月 28 日とし、何故か 1908 年とする。（宣統元年）11 月 28 日が陰暦（当年陰暦閏 2 月）とすると、西暦転換では 1910 年 1 月 9 日となる。また、日本の資料は、戴炎輝博士の御生年をこれまた何故か 1908 年と 1909 年のいずれかを載せている。当時は、既に明治末で、台湾では陽暦を使っていたはずであり、このあたりよくわからない。取りあえず、ここでは、11 月 28 日を陽暦として記載しておく。）

1923（民国 12、大正 12）年 3 月 屏東公学校（現屏東県立中正国小）卒業

1927（民国 16、昭和 2）年 3 月 高雄州立高雄中学校四年修了（第二回生）

1930（民国 19、昭和 5）年 3 月 台北高等学校文科乙類卒業

1933（民国 22、昭和 8）年 3 月 東京帝国大学法学部卒業

同 年 4 月 東京帝国大学大学院入学（～昭和 10 年 3 月在籍）

1934（民国 23、昭和 9）年 11 月 高等試験司法科試験合格

1935（民国 24、昭和 10）年 ? 月 帰台、弁護士登録、高雄で開業

1945（民国 34、昭和 20）年 8 月 15 日 終戦（光復）

同 年 ? 月 高雄県（旧州は県に改正）潮州郡郡守

同 年 11 月 高雄地方法院推事

1946（民国 35、昭和 21）年 10 月 国立台湾大学法学院副教授

1947（民国 36、昭和 22）年 ? 月 国立台湾大学法学院教授

1962（民国 51、昭和 37）年 3 月 19 日 法学博士（東京大学）（学位論文：唐律総論）

1971（民国 60、昭和 46）年 7 月 司法院大法官

1972（民国 61、昭和 47）年 7 月 司法院副院長

1976（民国 65、昭和 51）年 ? 月 中国法制史学会初代理事長

1977（民国 66、昭和 52）年 4 月 司法院院長

1979（民国 68、昭和 54）年 7 月 辞職

同 年 7 月 総統府資政

1992（民国 81、平成 4）年 7 月 3 日 逝去（於台大医院）、享年 84

（旧居：台北市南昌路 2 段 1 巷 2 号）

2003（民国 92、平成 15）年 11 月 29、30 日 台北市徐州路 21 号 台湾大学法律学院
国際会議庁で、「法史学の伝承、方法与趣向—戴炎輝先生九五冥誕紀念国際学術研討会開催

（後掲「戴炎輝博士記念著作、同関連著作」等より作成した。）

2 著作目録

(1) 著書

1955 (民国 44、昭和 30) 年

※①『中国親属法』 台北、自己出版 442 頁 9 月刊

1956 (民国 45、昭和 31) 年

※②『日本民法総則編判例研究』 (司法叢書) 台北、司法行政部 155 頁 12 月刊

1957 (民国 46、昭和 32) 年

※③『中国継承法』 台北、自己出版 298 頁 1 月刊

1959 (民国 48、昭和 34) 年

※④『中国身分法史』 (司法叢書) 台北、司法行政部 124 頁 12 月刊

1960 (民国 49、昭和 35) 年

※⑤『中国法制史概要』 台北、聯合図書公司 282 頁 9 月刊

1964 (民国 53、昭和 39) 年

※⑥『唐律通論』 台北、国立編訳館 685 頁 4 月刊 (国立編訳館部定大学用書編審査委員会主編 戴炎輝編著 台北 国立編訳館)

【書評】菊池英夫『史学雑誌』第 75 編第 3 号 (1966 (昭和 41) 年)

1965 (民国 54、昭和 40) 年

※⑦『唐律各論』 台北、自己出版 324 頁 3 月刊 (増訂版⑫)

【書評】菊池英夫『史学雑誌』第 75 編第 3 号 (1966 (昭和 41) 年)

1966 (民国 55、昭和 41) 年

※⑧『中国法制史』 台北、三民書局 380 頁 6 月刊 (1979 年修訂版刊)

1979 (民国 68、昭和 54) 年

※⑨『清代台湾之郷治』 (台湾研究叢刊) 台北、聯経出版事業公司 852 頁 7 月刊

(所収論文: 番号は、後掲「3 論説その他 (著書を含む。)」中のものを示す。)

第 1 編 74	第 2 編 20 (中文訳)	第 3 編 55
第 4 編 57	第 5 編 73	第 6 編 36
第 7 編 42	第 8 編 72	附録 1 11 (中文訳)
附録 2 28	附録 3 30	附録 4 41

1986 (民国 75、昭和 61) 年

※⑩『中国継承法 (修訂版 第一版)』 (戴炎輝、戴東雄共著) 台北、自己出版 374 頁 (含本文 328 頁、各版序言及主要参考書 9 頁、目次 20 頁、附録 17 頁) 3 月刊 (※③の改訂版)

※⑪『中国親属法 (修訂版 第一版)』 (戴炎輝、戴東雄共著) 台北、自己出版 571 頁 (含本文 502 頁、各版序言及主要参考書 11 頁、目次 25 頁、附録 33 頁) 8 月刊 (※①の改訂版)

1988 (民国 77、昭和 63) 年

※⑫『唐律各論 (増訂版)』 (上、下) 台北、成文出版社 (上) 自序 2 頁、目次 32 頁、

例言 3 頁、本文 452 頁、（下）本文 371 頁、索引 34 頁 5 月刊（※⑦の増訂版）

（1992（民国 81、平成 4）年 7 月 3 日 逝去）

1998（民国 87、平成 10）年

※⑬『伝統中華社会的民刑法制—戴炎輝教授論文集—』 台北、（財）戴炎輝文教基金会 718 頁 11 月 28 日刊（90 冥誕紀念、戴東雄大法官の「序」及び「戴炎輝教授簡介」あり。）

（所収論文：番号は、後掲「3 論説その他（著書を含む。）」中のものを示す。収録順、但し、44/45、64/67 は各々一編になっている。）

25、34、65、44/45、62、50、48、52、51、77、64/67、71、70

2002（民国 91、平成 14）年

※⑭『親屬法』（戴炎輝、戴東雄共著） 台北、自己出版 701 頁 8 月刊（※⑩の改訂版か？）

2003（民国 92、平成 15）年

※⑮『繼承法』（戴炎輝、戴東雄共著） 台北、自己出版 377 頁 2 月刊（※⑩の改訂版か？）

（註）戴炎輝博士大作【中國親屬法】暨【中國繼承法】、原係獨著。後改與其子嗣戴東雄共著、原仍使用【中國親屬法】暨【中國繼承法】之書名。但【中國親屬法】自 2002 年 8 月新修訂版（2004 年 5 月新修訂版 2 刷）起、已更名為【親屬法】。全書共 701 頁（含本文 608 頁、序言及目次 38 頁、附錄『親屬法別冊』（針對 2002 年 6 月 26 日之修正條文予以論述）55 頁）。至於【中國繼承法】自第 17 版（2003 年 2 月）起、亦更名為【繼承法】（1998 年發行之第 16 版仍使用【中國繼承法】書名）。全書計 377 頁（含本文 348 頁、序言及目次 29 頁）。

(2) 整理・編纂

1955 (民國 44、昭和 30) 年

※⑩『台灣省通志稿卷三 政事志司法篇』(台北、台灣省文獻委員會、1955 (民國 44) 年刊) 1~140 頁(林熊祥・李騰嶽監修、戴炎輝・蔡章麟纂修)

1969 (民國 58、昭和 44) 年

※⑪『台灣民事習慣調查報告』(編纂)(台北、司法行政部、1969 (民國 58) 年 7 月刊)

1975 (民國 64、昭和 50) 年

※⑫『大清律例彙輯便覽』(1~5、光緒 29 (1903) 年刊本の影印、標點補正戴炎輝)(台北、成文出版社、1975 (民國 64、昭和 50) 年)

(1992 (民國 81、平成 4) 年 7 月 3 日 逝去)

1995 (民國 84、平成 7) 年

※⑬『淡新檔案 第一編 行政』(『淡新檔案』校註出版編輯委員會編輯、國立台灣大學、1995 (民國 84、昭和 60) 年、16 冊本)

(註) 1995 (民國 84、平成 7) 年※⑭『淡新檔案』之出版資料:

書名: 淡新檔案 第一編 行政 作者: 淡新檔案校註出版編輯委員會

出版: 臺北市 國立臺灣大學、民 84

附註項: 第 1 冊、總務類: 禮儀、吏務、吏紀、薪津;--第 2 冊、總務類: 外事、移交、雜事--第 3 冊、行政類: 學務、鄉保、聯庄、保甲--第 4 冊、行政類: 厚俗、義倉、救恤--第 5 冊、財政類: 田賦、清賦--第 6 冊、財政類: 稅契、給照、釐金、錢幣、徵收--第 7 冊、財政類: 解庫、雜事; 建設類: 民業--第 8 冊、建設類: 鹽務、樟腦--第 9 冊、建設類: 礦產、工程--第 10 冊、交通類: 驛站、船政、鐵路、義渡--第 11 冊、軍事類: 軍政、兵餉--第 12 冊、軍事類: 城工、息庄、私火--第 13 冊、撫墾類: 社務、社租--第 14 冊、撫墾類: 隘務--第 15 冊、撫墾類: 隘務、屯務--第 16 冊、撫墾類: 屯務

標題: 臺灣-史料、臺北縣-方志、新竹縣-方志

(參考)

《臺灣史 11 講》〈<http://subtpg.tpg.gov.tw/web-life/taiwan/9704/9704-03.htm>〉

「淡新檔案」的文書學介紹 文／吳密察 (平成 22 年 11 月 4 日追加)

2001 (民國 90、平成 13) 年

※⑮『淡新檔案 第一編 行政』(吳密察主編、國立台灣大學圖書館、2001 (民國 90、平成 13) 年、8 冊本)

(註) 2001 (民國 90、平成 13) 年※⑯『淡新檔案』(吳密察主編、國立台灣大學圖書館、2001 (民國 90、平成 13) 年、8 冊本) 之出版資料:

書名: 淡新檔案 第一編 行政

作者: 吳密察 主編 出版: 臺北市: 臺大圖書館、2001[民 90]

標題: 臺灣 -- 史料 新竹縣 -- 方志 臺北縣 -- 方志

事實上、吳密察先生主編之【淡新檔案】、計如下列

〈http://nbinet1.ncl.edu.tw/screens/opac_menu.html〉、並請 參考:

① 淡新檔案 十六 第一編 行政 撫墾類:屯務 吳密察主編 (2005 年)

- ② 淡新檔案 十三 第一編 行政 撫墾類:社務、社組 吳密察主編 (2005 年)
- ③ 淡新檔案 十五 第一編 行政 撫墾類:隘務、屯務 吳密察主編 (2005 年)
- ④ 淡新檔案 十四 第一編 行政 撫墾類:隘務 吳密察主編 (2005 年)
- ⑤ 淡新檔案 十二 第一編 行政 軍事類:城工.息庄.私火 吳密察主編 (2004 年)
- ⑥ 淡新檔案 十 第一編 行政 交通類:驛站.船政.鐵路.義渡 吳密察主編 (2004 年)
- ⑦ 淡新檔案 第一編 行政 吳密察主編 (2001 年)

(3) 論説その他（著書等を含む。）

1934（民国 23、昭和 9）年

- ・ 1 近世支那及び台湾の家族共産制（1）、（2・完） 『法学協会雑誌』第 52 巻第 10、11 号 10、11 月（老川寛監修『家族研究論文資料集成 明治 大正 昭和前期篇』第 2 巻 家族・家族制度論（2）（クレス出版、平成 12 年 5 月刊）に再録。）（※※附録 1、中文訳）

1935（民国 24、昭和 10）年

- ・ 2 同姓不婚（1）、（2・完） 『法学協会雑誌』第 53 巻第 7、8 号 7、8 月（老川寛監修『家族研究論文資料集成 明治 大正 昭和前期篇』第 21 巻 婚姻（5）（クレス出版、平成 13 年 4 月 25 日刊）173-206 頁に再録。）

1936（民国 25、昭和 11）年

- ・ 3 祭田又は祭祀公業（1）、（2・完） 『法学協会雑誌』第 54 巻第 10、11 号 10、11 月

1937（民国 26、昭和 12）年

- ・ 4 近世支那並台湾の養子法 『台法月報』第 31 巻第 7～11 号 7～11 月

1938（民国 27、昭和 13）年

- ・ 5 招婿婚に就て 『台法月報』第 32 巻第 3～6 号 3～6 月
（老川寛監修『家族研究論文資料集成 明治 大正 昭和前期篇』第 21 巻 婚姻（5）（クレス出版、平成 13 年 4 月 25 日刊）807-838 頁に再録。）

1939（民国 28、昭和 14）年

- ・ 6 台湾旧慣上の合会（頼母子講） 『台法月報』第 33 巻第 3～11 号 3～11 月

1941（民国 30、昭和 16）年

- ・ 7 支那・台湾における孝衣会、父母会、葬社（1） 『台法月報』第 35 巻第 4 号 4 月
- ・ 8 仲秋月餅 『興南新聞』（註：昭和 16 年 2 月 11 日に『台湾新民報』より改称。）5 月 1、2 日
- ・ 9 曹公の判決 『興南新聞』5 月 5 日
- ・ 10 頼母子講 『興南新聞』5 月 10 日
- ・ 7 支那・台湾における孝衣会、父母会、葬社（2） 『台法月報』第 35 巻第 5 号 5 月
- ・ 7 支那・台湾における孝衣会、父母会、葬社（3） 『台法月報』第 35 巻第 6 号 6 月
- ・ 11 赤山地方の平埔族（1） 『民俗台湾』第 1 巻第 1 号 14～16 頁 7 月（※※附録 1（中文訳）「赤山地方的平埔族」）
- ・ 11 赤山地方の平埔族（2） 『民俗台湾』第 1 巻第 2 号 8～10 頁 8 月（※※附録 1（中文訳））
- ・ 7 支那・台湾における孝衣会、父母会、葬社（4） 『台法月報』第 35 巻第 8 号 8 月
- ・ 11 赤山地方の平埔族（3） 『民俗台湾』第 1 巻第 3 号 10～13 頁 9 月（※※附録 1（中文訳））
- ・ 11 赤山地方の平埔族（4） 『民俗台湾』第 1 巻第 4 号 14～17 頁 10 月（※※附録 1（中文訳））
- ・ 11 赤山地方の平埔族（5） 『民俗台湾』第 1 巻第 5 号 10～13 頁 11 月（※※附録 1

(中文訳)

1942 (民国 31、昭和 17) 年

- ・ 11 赤山地方の平埔族 (6・完) 『民俗台湾』第 2 巻第 2 号 1～7 頁 2 月 (※※附録 1 (中文訳))
- ・ 12 支那・台湾に於ける神明会 『台法月報』第 36 巻第 2～5 号
- ・ 11 赤山地方の平埔族補訂その他 『民俗台湾』第 2 巻第 3 号 36～38 頁 3 月 (※※附録 1 (中文訳))
- ・ 13 (書評) 仁井田陞著『支那身分法史』 『民俗台湾』第 2 巻第 6 号 4 頁 6 月
- ・ 14 鶏肋集 (1) 『民俗台湾』第 2 巻第 10 号 2～4 頁 10 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 14 鶏肋集 (2) 『民俗台湾』第 2 巻第 11 号 8～11 頁 11 月 (著者名: 田井輝雄)
- (参考) 『民俗台湾』第 2 巻第 12 号 (昭和 17 年 12 月) 47 頁に、「(昭和 17) 年 11 月 21 日南方土俗学会例会に於て、『支那台湾の不動産の贖回 (マ、回贖) (買戻) 找貼 (追増)』と題して講演」とある。

1943 (民国 32、昭和 18) 年

(参考) 『台法月報』第 37 巻第 1 号 (昭和 18 年 1 月) 125 頁に、台北比較法学会 11 月例会記事として、昭和 17 年 11 月 21 日、同会、南方土俗学会共同主宰の下、田井輝雄氏が「台湾・支那 (マ) の不動産の回贖・找貼」を講演した旨の記載があり、次いでその要旨が掲載されている。

- ・ 14 鶏肋集 (3) 『民俗台湾』第 3 巻第 1 号 10～13 頁 1 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 15 支那・台湾に於ける不動産売買の回贖找貼 『台法月報』第 37 巻第 2～6 号 2～6 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 14 鶏肋集 (4) 『民俗台湾』第 3 巻第 2 号 18～21 頁 2 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 14 鶏肋集 (5) 『民俗台湾』第 3 巻第 3 号 18～21 頁 3 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 14 鶏肋集 (6) 『民俗台湾』第 3 巻第 4 号 25～27 頁 4 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 14 鶏肋集 (7・完) 『民俗台湾』第 3 巻第 5 号 16～19 頁 5 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 16 台湾の旧慣と土地問題 『台湾公論』第 8 巻第 5 号 94～96 頁 5 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 17 鶏肋集続 (1) 『民俗台湾』第 3 巻第 7 号 8～9 頁 9 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 17 鶏肋集続 (2) 『民俗台湾』第 3 巻第 9 号 15～17 頁 9 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 18 民の鏡 (巻頭言) 『民俗台湾』第 3 巻第 10 号 1 頁 10 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 17 鶏肋集続 (3) 『民俗台湾』第 3 巻第 10 号 22～24 頁 10 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 19 媳婦仔雑考 『民俗台湾』第 3 巻第 11 号 2～4 頁 11 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 20 台湾並に清代支那の村庄及び村庄廟 『台湾文化論叢』第 1 輯 (台北、清水書店) 223～334 頁 12 月 25 日刊 (著者名: 田井輝雄) (※※第 2 編 (中文訳) 「村庄及村庄廟」)

1944 (民国 33、昭和 19) 年

- ・ 17 鶏肋集続 (4) 『民俗台湾』第 4 巻第 1 号 22～24 頁 1 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 17 鶏肋集続 (5) 『民俗台湾』第 4 巻第 3 号 26～28 頁 3 月 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 21 台湾研究の意義 (上) 『興南新聞』3 月 4 日 (著者名: 田井輝雄)
- ・ 21 台湾研究の意義 (中) 『興南新聞』3 月 5 日 (著者名: 田井輝雄)

- ・21 台湾研究の意義（下） 『興南新聞』3月7日（著者名：田井輝雄）
 - ・17 鶏肋集続（6） 『民俗台湾』第4巻第4号14～15頁 4月（著者名：田井輝雄）
 - ・17 鶏肋集続（7） 『民俗台湾』第4巻第5号22～24頁 5月（著者名：田井輝雄）
 - ・17 鶏肋集続（7）（註：番号重複） 『民俗台湾』第4巻第7号8～11頁 7月（著者名：田井輝雄）
 - ・22 軍旗の下に一徴兵制施行にあたりて— 『台湾公論』第9巻第9号66～67頁 9月（著者名：田井輝雄）
 - ・17 鶏肋集続（8・完） 『民俗台湾』第4巻第9号7～9頁 9月（著者名：田井輝雄）
- 1945（民国34、昭和20）年
- ・23 台湾の家族制度と祖先祭祀団体 『台湾文化論叢』第2輯（台北、清水書店）181～264頁 2月?日刊（著者名：田井輝雄）

（終戦（光復））

1947（民国36、昭和22）年

- ・24 （随筆）啓事看法 『台湾文化』第2巻第4期14～16頁 7月

1948（民国37、昭和23）年

- ・25 香灯租—關於支分所有權、物的負擔之若干考察 『人文科学論叢』第1輯15～35頁 2月（※※※1～40頁）
- ・26 清代台湾族長的選充 『台湾文化』第3巻第6期（7・8月合併號）14～16頁 8月

1949（民国38、昭和24）年

- ・27 五十年来的台湾法制 『台湾文化』第5巻第1期1～13頁 7月

1950（民国39、昭和25）年

- ・28 台中県大村郷調査報告 『台湾文化』第6巻第1期43～53頁 1月（※※附録2）
- ・29 民法上の親子關係 『社会科学論叢』（台大法学院）第1輯1～43頁 4月
- ・30 台中県草屯鎮調査報告書 『台湾文化』第6巻第2期13～20頁 5月（※※附録3）
- ・31 有関台湾基督教兩件資料（與陳棋炎・曾瓊珍合撰） 『台湾文化』第6巻第2期61～72頁 5月

1951（民国40、昭和26）年

- ・32 台湾親屬繼承習慣 『法学雜誌』第2巻第1期7～11頁 1月
- ・33 台湾不動産物權之清理及其變動之方式 『法学雜誌』第2巻第12期10～14頁 12月

1952（民国41、昭和27）年

- ・34 吾国近世抵押權論 『社会科学論叢』第3輯（第3篇）1～37頁 5月（※※※41～97頁）

1953（民国42、昭和28）年

- ・35 清代淡新檔案整理序説 『台北文物』第2巻第2期2～7頁 8月
- ・36 清代台湾の屯制養贍地及屯田 『社会科学論叢』第4輯（第6篇）1～42頁 9月（※

※第6編)

1955 (民国 44、昭和 30) 年

※①『中国親属法』 台北、自己出版 442 頁 9 月刊

・ 37 清代司法制度 『台湾省通志稿卷三政事志司法篇』 (台湾省文献委員会編) 1~140 頁 ?月刊

・ 38 淡新檔案資料 戴炎輝、施綺雲合編『台北文物』第 4 卷第 3 期 15~37 頁 11 月

※⑩『台湾省通志稿卷三 政事志司法篇』 (台北、台湾省文献委員会、1955 (民国 44) 年刊) 1~140 頁 (林熊祥・李騰嶽監修、戴炎輝・蔡章麟纂修)

1956 (民国 45、昭和 31) 年

※②『日本民法総則編判例研究』 台北、司法行政部 155 頁 12 月刊

・ 39 遺産承継人之範圍順序及応継分 『法学叢刊』第 3 輯 65~78 頁 7 月

・ 40 台湾法律的生活關係之變遷 『台湾風土文物民間知識百年紀念專輯』19~26 頁 9 月

1957 (民国 46、昭和 32) 年

※③『中国繼承法』 台北、自己出版 298 頁 1 月刊

・ 41 清代新竹城郊金山面地方之墾隘 『薩孟武先生六秩晋一華誕紀念社会科学論文集』39~67 頁 3 月 (※附録 4)

1958 (民国 47、昭和 33) 年

・ 42 清代台湾之隘制及隘租 『台湾銀行季刊』第 9 卷第 4 期 38~73 頁 3 月 (後、台湾銀行經濟研究室『台湾經濟史 第 7 集』に再録) (※※第 7 編)

・ 43 清代台湾の隘制及び隘租 『法制史研究 8 (1957)』1~56 頁 (日文) 3 月 30 日
【書評】今堀誠二『法制史研究 10 (1959)』 (1960 (昭和 35) 年 3 月 30 日)

・ 44 立継—立継之要件 『法学叢刊』第 10 期 20~35 頁 4 月 (※※※203~383 頁)

・ 45 立継—立継權人、無効撤銷効力及廢継等 『法学叢刊』第 11 期 61~80 頁 7 月 (※※※203~283 頁)

1959 (民国 48、昭和 34) 年

※④『中国身分法史』 (司法叢書) 台北、司法行政部 124 頁 12 月刊

1960 (民国 49、昭和 35) 年

・ 46 中華民國婚姻法 宮崎孝治郎編『新比較婚姻法 I 東洋』東京、勁草書房 6 月 30 日刊 111~179 頁 (日文)

※⑤『中国法制史概要』 台北、聯合圖書公司 282 頁 9 月刊

・ 47 論唐律上身分与罪罰 『法律評論』第 26 卷第 5 期 7~10 頁、6 期 10~14 頁 5、6 月

・ 48 論唐律上犯罪競合 『法学叢刊』第 19 期 46~56 頁 7 月 (※※※325~350 頁)

・ 49 論唐律上刑之更正及補救 (尤其冤獄賠償) 『法律評論』第 26 卷第 9 期 2~5 頁 9 月

・ 50 論唐律上罪名定刑之態樣 『法学叢刊』第 20 期 88~94 頁 10 月 (※※※305~324 頁)

1961 (民国 50、昭和 36) 年

・ 51 論唐律上「除免官当」 『法学叢刊』第 21 期 90~102 頁 1 月 (※※※409~440 頁)

・52 論唐律上身分与罪刑之關係 『社会科学論叢』第11輯（第1篇）1～39頁 6月（※※※351～408頁）

・53 唐律各論（1）第1編衛禁律 『法学叢刊』第23期 32～35頁 7月

・53 唐律各論（2）第2編職制律 『法学叢刊』第24期 27～64頁 10月

1962（民国51、昭和37）年

・53 唐律各論（3）第三編戶婚律 『法学叢刊』第25期 27～60頁 1月

・53 唐律各論（4）第4編廬庫律 『法学叢刊』第26期 83～98頁 4月

・53 唐律各論（5）第5編擅興律 『法学叢刊』第27期 39～53頁 7月

・54 論唐律賊盜律之賊律 『法学叢刊』第28期 32～51頁 10月

・55 清代台湾郷莊之建立及其組織 『台湾銀行季刊』第13卷第3期（後、台湾銀行經濟研究室『台湾經濟史 第9集』に収録。）（※※第3編）

・56 論親屬會議—比較法的研究 『專題研究叢刊』第402期 国民党中央委員会設計考核委員会刊

1963（民国52、昭和38）年

・57 清代台湾郷莊之社会的考察 『台湾銀行季刊』第14卷第4期 1月（※※第4編）

・58 清代台湾之大小租業 『台北文献』第4期 1～47頁 6月

・59 清代台湾之家制及家産 『台湾文献』第14卷第3期 1～19頁 9月

・60 唐律に於ける除免当贖法 『法制史研究 13（1962）』53～92頁（日文） 3月30日

1964（民国53、昭和39）年

※⑥『唐律通論』 台北、国立編訳館 685頁 4月刊

【書評】菊池英夫『史学雑誌』第75編第3号（1966（昭和41）年）

1965（民国54、昭和40）年

※⑦『唐律各論』 台北、自己出版 324頁 3月刊

【書評】菊池英夫『史学雑誌』第75編第3号（1966（昭和41）年）

・61 中国古代法上之罪刑法定主義 『社会科学論叢』第15輯 59～70頁 7月（※※※285～303頁）

1966（民国55、昭和41）年

※⑧『中国法制史』 台北、三民書局 380頁 6月刊（1979年修訂版刊）

1968（民国57、昭和43）年

・62 清代台湾における訴訟手續について—淡新檔案を資料として— 『国家学会雑誌』第81卷第3・4号（日文） 9月

（本稿は、昭和42（1967）年10月東京大学法学部基礎法学会での講演で、録音文章化したものが、講演者の校閲を経た上で掲載されたものである。滋賀秀三『清代中国の法と裁判』（東京、創文社、昭和59年12月15日刊）148頁。）

【書評】八重津洋平『法制史研究 20（1970）』（1971（昭和46）年3月30日）236、237頁

・63 唐及明清律上之二罪以上俱發与更犯 『中国法制史論集』271～286頁 中国法学協会・中国文化学院法律研究所刊

1969（民國 58、昭和 44）年

※⑩『台灣民事習慣調查報告』（編纂）（台北、司法行政部、1969（民國 58）年 7 月刊）

1970（民國 59、昭和 45）年

- ・64 唐律上之保辜制 『中華文化復興月刊』第 3 卷第 11 期（※※※495～589 頁）

1971（民國 60、昭和 46）年

- ・65 中國固有法上之離婚法 『法學叢刊』第 62、63、64 期（※※※99～202 頁）
- ・66 『淡新檔案選錄 行政編初集（第 1 冊）』弁言 台灣文獻叢刊（台灣銀行）第 295 種（台灣銀行經濟研究室、4 冊。1997（民國 86、平成 9）年刊の南投・台灣省歷史文獻叢刊本は上記 4 冊本を上下 2 冊に合綴影印せしものの由。）

1972（民國 61、昭和 47）年

- ・67 清律上之保辜制 『中華文化復興月刊』第 6 卷第 5、6 期（※※※495～589 頁）
- ・68 清代之司法制度 『台灣省通志』卷 3 政事志司法編第 1 冊
- ・69 清律に於ける共犯 『國家學會雜誌』第 85 卷第 5・6 号（日文）

【書評】中村茂夫『法制史研究 24（1974）』（1975（昭和 50）年 3 月 30 日）

【関連】滋賀秀三・律令研究会編『譯註日本律令 5 唐律疏議譯註篇 1』（東京堂出版、1979（昭和 54）年 10 月 20 日刊）259～265 頁

- ・70 清律例上之共犯 『法學叢刊』第 69、70、71 期（※※※639～707 頁）

1975（民國 64、昭和 50）年

※⑪『大清律例彙輯便覽』（1～15、光緒 29（1903）年刊本の影印、標點補正 戴炎輝）（台北、成文出版社、1975（民國 64、昭和 50）年）

- ・71 清現行刑律之編定 『法學叢刊』第 77、78 期（※※※591～637 頁）

（註）戴炎輝博士曾在 1973（民國 62）年 7 月接受行政院國家科學委員會・中華文化復興委員會補助、完成【清現行刑律之編定篇】之專題研究報告、列為陳光宇等編【清末民初中國法制現代化之研究】第一輯。該報告採手寫油印方式出版、計 105 頁。據個人判斷、該報告後來應發表於法學叢刊

- ・72 清代地方官治組織及其實際運用 『憲政時代』第 1 卷第 2、3、4 期（1975 年 10 月（69～81 頁）、1976 年 1 月（59～81 頁）、1976 年 4 月（85～98 頁））（※※第 8 編）

1976（民國 65、昭和 51）年

- ・73 清代台灣番社的組織及其運用 『台灣文獻』第 26 卷第 4 期、第 27 卷第 1 期合刊（※※第 5 編）

- ・74 清代台灣的鄉治組織及其實際運用 『法學叢刊』第 80～第 83 期（※※第 1 編）

1978（民國 67、昭和 53）年

- ・75 進律疏表・律疏序・篇目疏訳註 律令研究会編『譯註日本律令 1 首卷』東京、東京堂出版 7～207 頁（日文）5 月 25 日刊、1999（平成元）年 6 月 30 日再版

・76 「Divorce in Traditional Chinese Law」 in: Chinese Family Law and Social Change in Historical and Comparative Perspective (Edited by David C. Buxbaum)、University of Washington Press、Seattle and London. (Tai Yen-hui)

1979（民國 68、昭和 54）年

※⑫『清代台灣之鄉治』（台灣研究叢刊）台北、聯經出版事業公司 852 頁 7 月刊（1984

(民国 73) 年 3 月第 2 次印行)

1981 (民国 70、昭和 56) 年

・ 77 唐律十惡之溯源 『中国法制史論文集』 (中国法制史学会出版) 台北、成文出版社
(※※※441~494 頁)

1983 (民国 72、昭和 58) 年

・ 78 (戴炎輝・張勝彦) 第 20 次台湾研究検討会—清代台湾漢人社会的土地形態— 『台湾風物』 第 33 卷第 1 期 53~64 頁

1984 (民国 73、昭和 59) 年

・ 79 唐律上除免當贖制之溯源 『律令制の諸問題—瀧川政次郎博士米寿記念論集—』 東京、汲古書院 5 月 26 日刊

1986 (民国 75、昭和 61) 年

※⑩『中国繼承法 (修訂版) 』 (戴炎輝、戴東雄共著) 台北、自己出版 ? 頁 3 月刊 (※③の改訂版)

※⑪『中国親屬法 (修訂版) 』 (戴炎輝、戴東雄共著) 台北、自己出版 ? 頁 8 月刊 (※①の改訂版)

1987 (民国 76、昭和 62) 年

・ 80 淡新檔案目錄稿 (1) (戴炎輝原編、高志彬重編) 『台北文獻』 (直字) 79 期 259~364 頁、3 月

1988 (民国 77、昭和 63) 年

※⑫『唐律各論 (増訂版) 』 (上、下) 台北、成文出版社 ? 頁 5 月刊 (※⑦の増訂版)
(1992 (民国 68、平成 4) 年 7 月 3 日逝去、享年 84)

1995 (民国 84、平成 7) 年

※⑬『淡新檔案 第一編 行政』 (淡新檔案校註出版編輯委員会編輯、国立台湾大学、1995 (民国 84、平成 7 年) 年 16 冊本)

1998 (民国 87、平成 10) 年

※⑭『伝統中華社会的民刑法制—戴炎輝教授論文集—』 台北、(財) 戴炎輝文教基金会 718 頁 11 月 28 日刊 (90 冥誕紀念、戴東雄大法官の「序」及び「戴炎輝教授簡介」あり。)

2001 (民国 90、平成 13) 年

※⑯『淡新檔案 第一編 行政』 (吳密察主編、国立台湾大学図書館、2001 (民国 90、平成 13) 年、8 冊本)

2002 (民国 91、平成 14) 年

※⑮『親屬法』 (戴炎輝、戴東雄共著) 台北、自己出版 701 頁 8 月刊 (※⑪の改訂版か?)

2003 (民国 92、平成 15) 年

※⑯『繼承法 (修訂版) 』 (戴炎輝、戴東雄共著) 台北、自己出版 377 頁 2 月刊 (※⑩の改訂版か?)

(調査中) (平成 19 年 11 月 25 日追加)

2003 (民国 92、平成 15) 年

唐律上議請減贖制之溯源（初出：1981 年）楊一凡主編『中国法制史考証』甲乙丙編・乙編
（法史考証重要論文選編）第 1 卷：律令考（楊一凡、劉篤才主編）（北京・中国社会科学出版社、2003 年 9 月刊）

(4) 戴炎輝博士記念著作

1978 (民国 67、昭和 53) 年

① 国立台湾大学法律学系編『戴炎輝先生七秩華誕祝賀論文集・固有法制与現代法学』（台北、成文出版社、1978 年 11 月刊。薩孟武教授の「寿序」、「戴炎輝先生著作目録」あり。）

【書評】瀧川政次郎『法制史研究 29 (1979) 』（1980 (昭和 55) 年 3 月 15 日)

(1992 (民国 68、平成 4) 年 7 月 3 日逝去、享年 84)

1992 (民国 81、平成 4) 年

② 『国立台湾大学法学論叢』第 21 卷第 2 期 (1992 年 8 月刊)

楊日然「敬悼 戴故名誉教授炎輝先生」、「戴故教授炎輝先生著作目録」

1996 (民国 85、平成 8) 年

③ 国史館編『中華民國褒揚令集続編 (4) 一附有關史料一』（台北、国史館、1996 年 7 月刊）戴東雄「先父戴炎輝先生行誼」（初出は 1992 (民国 81) 年）

1997 (民国 86、平成 9) 年

④ 莊永明「法界元老戴炎輝先生」『台北市文化人物略伝』（台北、台北市文献委員会、1997 年 5 月 31 日刊）（213～223 頁）

⑤ 『司法改革先駆—法学哲人—戴炎輝博士回憶集』（台北、（財）戴炎輝文教基金会、1997 年 11 月 28 日刊）（89 歳冥誕紀念。戴周美恵「縁起」他 24 編を収録する。）

1998 (民国 87、平成 10) 年

⑥ 陳計男「戴炎輝伝」国史館編『国史擬伝』第 7 輯（1998 年 6 月刊、ただし、上記⑤、下記⑧に再録されている。）

2003 (民国 92、平成 15) 年

⑦ (2003 年 11 月 29 (土)、30 日 (日)、台北市徐州路 21 号 台湾大学法律学院国際会議庁で「法史学的伝承、方法与趨向—戴炎輝先生九五冥誕紀念国際學術研討会」が開催される。)

⑧ 中国法制史学会秘書処編輯（主編 黄源盛）『戴炎輝先生追思文集 著作目録』（台北、（財）戴炎輝文教基金会、2003 年 11 月 28 日刊）（口絵、黄静嘉「戴炎輝：樸実謹嚴、開一代宗風的大師—略述其生平及其对法史学、法学教育及司法進歩的貢獻」他 20 編（ただし、黄静嘉のもの以外は上記⑤『司法改革先駆—法学哲人—戴炎輝博士回憶集』の轉載。）、「戴炎輝先生著述年表」及び「戴炎輝先生著作目録」を収録する。）

⑨ 『「法史学的伝承、方法与趨向—戴炎輝先生九五冥誕紀念国際學術研討会」大会手冊』（当該研討会当該籌備委員会編、2003 年 11 月 29 (土)、30 日 (日))

⑩ 中国法制史学会主編『法制史研究』第 4 期（台北、2003 年 12 月刊）（上記「法史学的伝承、方法与趨向—戴炎輝先生九五冥誕紀念国際學術研討会」中の一部諸論稿を掲載。）

陳惠馨「法史学的研究方法—從戴炎輝先生的相關研究談起」

林瑞「固有法与継受法—戴炎輝法律史研究的社会学考察」

莊以馨「『法史学的伝承、方法与趨勢—戴炎輝先生九五冥誕紀念国際學術研討会』紀要」

(5) 戴炎輝博士関連著作

1982 (民国 71、昭和 57) 年

・台湾近現代史研究会編『台湾近現代史研究』第 4 号 (池田敏雄氏追悼記念特集) (東京、緑蔭書房、昭和 57 年 10 月 30 日刊) 78、88、112、130 頁

1984 (民国 73、昭和 59) 年

・滋賀秀三『清代中国の法と裁判』(東京、創文社、昭和 59 年 12 月 15 日刊) 148、149 頁 (平成 19 年 11 月 25 日追加。滋賀秀三氏 (1921~2008) は、平成 20 年 2 月 25 日逝去された。享年 86。平成 20 年 2 月 28 日追加)

1989 (民国 78、平成元) 年

・黄源盛「台湾における中国法制史研究の概況」『東洋法制史研究会通信』第 3 号 (平成元年 2 月 23 日刊)

〈http://www.terada.law.kyoto-u.ac.jp/tohoken/index_a.htm〉

〈http://www.terada.law.kyoto-u.ac.jp/tohoken/3_kou.htm〉

(1992 (民国 68、平成 4) 年 7 月 3 日逝去、享年 84)

1993 (民国 82、平成 5 年)

・戴炎輝博士訃報『法制史研究 42 (1992) 』(1993 (平成 5 年) 年 3 月 30 日刊) 401 頁

1996 (民国 85、平成 8) 年

・若林正丈監修『台湾における台湾史研究—制度・環境・成果: 1986-1995—』(東京、(財) 交流協会、1996 年 9 月刊)

(本書は、台湾史研究環境調査小組『台湾史研究環境調査—制度・環境・成果: 1986-1995—』(台北、発行年月日不明) の邦訳で、戴博士に関するものとしては、「淡新檔案」関係について言及されている。同書 29~32 頁参照。)

1997 (民国 86、平成 9) 年

・陳艷紅「戴炎輝著作年譜」 台湾・東吳大学日本語文学系博士論文「領台時代の台湾文化と日本—(民俗台湾)を中心に—」1997 年 6 月 (同著作年譜は、「『国立台湾大学教職員著作目録』(法学院、国立台湾大学図書館、1965.11.15) の記載及び関係文献より作成」とある。なお、陳女史は 2006 年 11 月現在中央警察大学 (通識教育中心) 専任副教授 (日文担当) との由。)

(註) 陳艷紅女史は、近く教授に御昇進予定とのことであるが、『民俗台湾』関係の著作をまとめられ、昨 2006 年 4 月に『『民俗台湾』と日本人』(致良出版社有限公司、2006 年 4 月初版一刷) として公刊されておられる。ただし、同書には戴炎輝博士著作目録関係の記述はない。

1998 (民国 87、平成 10) 年

・久保正幡『久保正幡略年譜・主要著作目録』(東京、洋販 (製作)、平成 10 年 1 月 20 日刊) 23 頁。久保正幡: 1911~2010。

1999 (民国 88、平成 11) 年

・楊基銓『台湾に生を享けて』(東京、日本評論社、平成 11 年 3 月 10 日刊) 60、61、

63、92、172 頁。台北高校同窓会、赤榕会（東大・台湾人同窓会）のことが記されている。
楊基銓：1918～2004。

・島田正郎「台湾講学事始め」『法史学研究会会報』第 4 号（東京、明治大学法史学研究会、平成 11 年 5 月 30 日刊）4 頁。島田正郎：1915～2009。

2002（民国 91、平成 14）年

・小田滋『堀内・小田家三代百年の台湾—台湾の医事・衛生を軸として—』（東京、日本図書刊行会、平成 14 年 11 月 10 日刊）81、84、99、104、127 頁。小田滋：1924～。

2003（民国 92、平成 15）年

・滋賀秀三『中国法制史論集（法典と刑罰）』（東京、創文社、平成 15 年 1 月 15 日刊）385 頁。滋賀秀三：1921～2008。

・『池田敏雄台湾民俗著作集』（上・下巻）（東京、緑蔭書房、平成 15 年 2 月 28 日刊）下巻 682 頁。

2006（民国 95、平成 18）年

・陳艷紅『民俗台湾と日本人』（台北、致良出版社、2006（平成 18）年 4 月刊）（未見。平成 22 年 11 月 4 日追加）。

2007（民国 96、平成 19）年

・西英昭「台北における図書館・文献検索情報—入門編・改定版—」『法史学研究会会報』第 11 号（東京、明治大学法史学研究会、平成 19 年 2 月 25 日刊）120 頁（旧稿：『法史学研究会会報』第 7 号（2002 年 9 月刊））（平成 19 年 8 月 9 日追加）

・わが国における法史学の歩み研究会（代表 岩野英夫）「聞き書き・わが国における法史学の歩み（7）—奥村郁三先生にお聞きする—」『同志社法学』第 59 巻第 1 号（通巻第 320 号、平成 19 年 5 月 31 日刊）406 頁）

（〈<http://jairo.nii.ac.jp/0027/00018084/en>〉参照。）

2009（民国 98、平成 21）年

・滋賀秀三『続・清代中国の法と裁判』（遺著。創文社、平成 21 年 2 月 25 日刊）25～58、59～68、214 頁に収録。滋賀秀三：1921～2008。（平成 21 年 5 月 5 日追加）

・西英昭『『台湾私法』の成立過程—テキストの層位学的分析を中心に—』（九州大学出版会、平成 21 年 10 月 15 日刊）（令和 3 年 11 月 13 日追加）

2020（民国 109、令和 2）年

・西英昭・松本卓朗「台北における図書館・文献検索情報—入門編・四訂版—」『法史学研究会会報』第 23 号（東京、明治大学法史学研究会、令和 2 年 3 月 30 日刊）217 頁（旧稿：『法史学研究会会報』第 11 号（平成 19 年 2 月刊））（令和 3 年 11 月 13 日追加）

（参考 1）『民俗台湾』の復刊状況

- ① 台北・古亭書屋（1969（民国 58、昭和 44）年刊）
- ② 東京・湘南堂（昭和 60（1985、民国 74）年 8 月刊）
- ③ 台北・武陵出版社（1988（民国 77）年 8 月刊）
- ④ 台北・南天書局（1998（民国 87）年刊）

(註) 中島利郎先生の御教示によれば、これは、未刊の第 44 号を加えた復刻完全版(全 8 巻)で、加えて、池田敏雄氏令夫人、令嬢の池田鳳姿(黄氏鳳姿、1928～)、麻奈両氏の随想及び索引が付され、印刷、製本とも、以前の復刻本とは比較にならない仕上がりとなっているとのことである。なお、『民俗台湾』の位置付けについて遊珮芸『植民地台湾の児童文化』(明石書店、平成 11 年 2 月 26 日刊) 297～300 頁が興味深い。その後、『池田敏雄台湾民俗著作集』(上・下巻、緑蔭書房、平成 15 年 2 月 28 日刊)が刊行された。

(参考 2) 『『台法月報』総目録』の刊行

『台法月報』については、平成 11 (1999) 年 9 月に、中島利郎・宋宜静編『『台法月報』総目録』(東京、緑蔭書房、平成 11 年 9 月 25 日刊)が刊行され、検索が容易になった。

〈http://www.koryu.or.jp/center/ez3_contents.nsf/08/6086AE042DAC1989492571BC00338104?OpenDocument〉(画像データベース紹介) (平成 25 年 2 月 5 日追加)

(参考 3) 淡新檔案関係邦人資料

・滋賀秀三(1921～2008)「淡新檔案の初歩的知識—訴訟案件に現われる文書の類型—」『東洋法史の探究—島田正郎博士頌寿記念論集—』(汲古書院、昭和 1987 (昭和 62) 年 9 月刊) (平成 18 年 3 月 31 日追加) ⇒滋賀秀三『続・清代中国の法と裁判』(創文社、平成 21 年 2 月 25 日刊) 25～58 頁に収録。(平成 21 年 5 月 5 日追加)

【書評】中村茂夫『法制史研究 39 (1989)』(1990 (平成 2) 年 3 月 30 日刊) (平成 20 年 1 月 16 日追加)

・滋賀秀三「淡新檔案を通じて見た清代の訴訟」(昭和 62 年度秋期東洋学講座(第 377 回、昭和 62 年 10 月 27 日開催)講演要旨)『東洋文庫書報』19 号(1987) 東京、東洋文庫、1988 (昭和 63) 年 3 月 25 日刊(65～67 頁) (平成 20 年 1 月 16 日追加)

・滋賀秀三「清代州県衙門における訴訟をめぐる若干の所見—淡新檔案を史料として—」『法制史研究』37 (1987) (1987 (昭和 63) 年 3 月 30 日刊) (平成 18 年 3 月 31 日追加) ⇒滋賀秀三『続・清代中国の法と裁判』(創文社、平成 21 年 2 月 25 日刊) 59～86 頁に収録。(平成 21 年 5 月 5 日追加)

【書評】中村茂夫『法制史研究 39 (1989)』(1990 (平成 2) 年 3 月 30 日刊) (平成 20 年 1 月 16 日追加)

3 その他

(1) 戴炎輝博士故居関係資料（令和 7（2025）年 4 月 24 日新設）

「日前得知：位於台北市南昌路巷弄深處、建於日治時期的首位台籍司法院長戴炎輝故居，在 2017 年登錄為直轄市定古蹟，歷經三年半的再造，重生為老宅餐廳「輝室」，正式進入試營運。」（Friday, April 18, 2025、梁添盛博士の御示教に拠る。）

<https://www.harpersbazaar.com/tw/life/food/g64415529/pan-toh/>

・「百年古蹟化身老宅餐廳「輝室」！在復古懷舊空間內品嚐「餐酒辦桌」概念美饌
台北古蹟老宅餐廳「輝室」復古登場！By Kelly HsiaoPublished: 2025/04/08」

https://culture.gov.taipei/News_Content.aspx?n=63F36AA6E434AD08&sms=78D644F2755ACCAA&s=68F3C1D6E59C55D1

・「戴炎輝寓所修復再利用工程今日開工 保留昔日「淡新檔案」整理空間 認識法學大師生平貢獻 發布日期：111-11-16」

<https://udn.com/news/story/7270/8661048>

・「首位台籍司法院長故居重生 老宅餐廳「輝室」試營運 2025-04-08 18:56 聯合報／記者高婉珮／即時報導」

（以上）